

青於藍

～藍よりも青く～

2017年3月1日発行 第10号
発行：福島県立相馬高等学校第1学年

「青春」

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦（きょうだ）を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春というのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。」——アメリカの詩人、サミュエル・ウルマンの詩の冒頭である。私はこの詩を約20年前、ある人生の先輩から紹介された。

私は20代後半から30代半ばまでスキーに夢中になっていた。冬になるとシーズン券を購入し、土曜日、日曜日、祝日を利用して年間40回を目安にスキー場に通った。その当時の生活は、朝6時に自宅を出発、夕方5時までスキークラブの仲間と練習、夜の8時に自宅に戻る。スキー漬けの生活が12月から4月まで続いた。浜通りの人にとってウィンタースポーツはあまり馴染みがないので、当時の会社の同僚からは変わり者だと思われていたかもしれない。しかし、私自身はというと、本当に楽しく、充実していた。純粋にスキーが上手になりたいという強い思いだけだった。

33歳の時、ニュージーランドで行われたスキー合宿に7日間参加した。参加メンバーは大学生が中心であったが、その中に明らかに60歳を超えている男性がいた。そして私はその男性と相部屋で合宿生活を送った。その方は会社を定年退職後、スキーの指導員の資格を取得し、今後は体の不自由な人にスキーの楽しさを伝えていきたいという思いを熱く語ってくれた。その時にサミュエル・ウルマンの詩を紹介された。「君はまだまだ若いだから、失敗を恐れず、やりたいことに全力でチャレンジすべきだ」とアドバイスして頂き、大きな刺激を受けた。

スキー合宿から20年近くたち、今の自分にこう問いかけてみる。「お前、今何かに夢中になっているか？」この問いかけに即答できない自分がある。日常生活を送るだけで一杯になっていないか？改めてサミュエル・ウルマンの詩がよみがえる、「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。」。合宿以降、男性の方とは年賀状のやりとりのみで会っていない。久しぶりに再会し、酒を飲みながら青春について語り合っていたい。

君たちは年齢的にも体力的にも青春の真っ只中にいる。4月からは2年生となり部活動、公開文化祭では中心的な役割を担わなくてははいけない。大変ではあるが、やり遂げた後の充実感・達成感は測りしれないものがあるはずだ。そして何よりもその経験は必ず君たちの進路実現に活かされる。

世代は違えど共に「青春」を謳歌しよう。

(5組担任 西山博文)

3月の行事予定

3月 1日(水)	卒業式
2日(木)	曜日交換(火曜の授業) 進路講演会(5・6校時)
7日(火)	3校時授業(①②③)
8日(水)	高校入試のため休み
9日(木)	〃
13日(月)	4校時授業(③④⑤⑥)
14日(火)	合格発表のため休み
16日(木)	百人一首かるた取り大会
17日(金)	終業式
20日(月)	〈春分の日〉
27日(月)	新入生オリエンテーション
29日(水)	離任式・教室移動



進研模試の結果から

1月の進研模試の結果が戻ってきました。現1年生は入学後すぐに行った基礎力テストの成績がとも悪く心配でしたが、ここに来て国語・数学の成績は平年並みになってきました。しかし、相変わらず英語の成績が低迷しています。英語は受験科目の要(かなめ)です。社会人になってからも英語力が必要とされる時代です。今本気で取り組まないと2年後に泣きます。英語ができずに志望校を諦める生徒が何人も出てきそうです。英語の力を伸ばそうと思ったらこの春休みが最後のチャンスです。

毎日これをやるべし！！

- ①「ユメタン」をコツコツ、毎日50語暗記
分からない単語をチェック→発音しながら書く→分からないフレーズチェック→書いて覚える
- ②「予習ノート」を毎日自力でやって授業に臨む
自分は何処が分からないのかを予め知る→授業で確認する→分からなかったところを復習

言い訳は自分を堕落させる。覚えられないのは集中力が足りないからだ。集中してもできないのなら時間をかける。自分に負けてしまったら、せつかくこの世に生まれてきた意味がない。ただひたすら努力せよ！！

3月2日(木)進路講演会

進研模試を実施しているベネッセコーポレーションの河野仙一氏を招いて講演会を実施します。1学年はこれまで3回(7月・11月・1月)進研模試を実施してきましたが、これまでの結果を踏まえ、大学入試に向けて必要とされる具体的な知識を身につけてもらうことが今回の趣旨です。生徒は進路希望ごとに2つのコースからどちらかを選んで講演を聞くことになります。大学名や偏差値を上げての話になるので、今の自分に何が足りないのかを知る機会になります。大学入試をいつ意識するかによって可否に差が出て来ます。この春休みを受験勉強のスタートラインだと思って勉強に取り組んでください。

3.11を前にして

2011年3月11日。あの日生徒の皆さんはまだ小学4年生でした。まもなく6度目の3.11がやって来ます。改めて、ほんの一部ですが被害の状況を載せます。この機会に思いを新たに、今の自分にできることは何か、将来大きな災害に遭ったときに自分に何ができるか考えて下さい。あの時、皆さんの保護者や先生は、子供達を守るために必死だったのです。

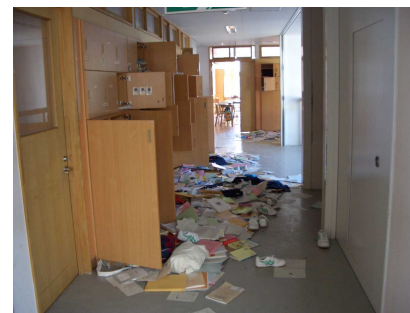
○午後2時46分三陸沖でマグニチュード9.0の巨大地震発生。翌日福島第1原発1号機爆発。

○被害状況

- ・全体の死者・行方不明者数……18,455人
- ・県内の死者・行方不明者数……1,810人
(内、新地・相馬・南相馬で約1,200人)
- ・県内の浸水面積……112㎡
- 〃 浸水域人口……7万人弱

・相馬高校の被害

- ・在校生は授業日だったために全員無事
(卒業生、入学予定者の中には亡くなった人もいた)
- ・生徒の自宅全壊・流失……60戸
- ・原発20キロ圏内に自宅がある生徒…23人
- ・家族を亡くした生徒……41人
- ・他校への転学……23人
- ・他校からの転入……29人
- ・原高・相農が本校敷地内でサテライト授業



地震直後の1年生の廊下



午後2時46分で時を止めた教室の時計